

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301108		
法人名	有限会社アルファルファアンドカンパニー		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	三重県鈴鹿市西條町495-1		
自己評価作成日	平成25年6月22日	評価結果市町提出日	平成25年10月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=2470301108-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年 7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者主導の自治会を月に1度開催し昨年より名称を「桜の会」に改めた。名称は当会議の中で利用者から募り決定した。当会の会長を持ち回りで選任し、可能な限り議事の進行に関与してもらっている。また、桜の会が開催される旨の回覧板数日前から回し、会長の直筆で利用者に周知している。会議の内容は、日々の生活の上での課題や希望について忌憚のない意見を収集し、毎日の生活の中に反映させている。行きたい場所や食べたいものなどについてもできるだけ希望に添うことができるよう努めている。また、ADLが低下してもできるだけそれまでの生活が維持できるように、最期までトイレで排泄できる、体調が悪くない限り入浴できるなど当たり前の尊厳を保つことができるよう支援している。また、毎月家族宛てに利用者の状態報告も含め手紙を出し、生活の様子や近況を知ってもらえるようにしている。生活の中では自立支援を追求し、過度に依存せず各々の能力が存分に発揮できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は商業施設の立ち並ぶ大通り沿いにあり、毎日の散歩を兼ねての買い物もしやすい環境である。裏手は広々とした田んぼで、リビングの大きい窓から移りゆく季節を感じ、夏には風鈴の音を聞きながらベランダで花火大会を眺めることができる。利用者との会話や笑いを大切にし、常に思いや心情をくみ取りながら、「尊厳」を重視したより良い暮らしができるよう、積極的な取り組みを行っている。また、毎月職員自らが業務を自己評価し反省と改善目標を立てることで、更なる職員の質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の廊下や職員の詰め所に理念を掲示し常に確認することができる。職員会議や日常の業務の中で共有し、常に念頭に置きながら支援している。	理念である「地域に密着した尊厳ある生活を支援する」ために、「喜び」「笑い」「愛情」を大切にしている。また、「尊厳」ある暮らしができるよう常に理念の再確認を職員全体で行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りや祭りに参加し交流を図っている。事業所内で作品展を開催し家族や地域関係者が自由に参加できるように努めている。また、事業所周りの溝掃除などを利用者と共にいり地域への奉仕活動としている。	周辺の商業施設を日常的に利用し、散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、民生委員から行事参加の声かけ(石取り祭り等)がある。また、中学生の職場体験も受け入れ、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	事業所責任者が地域の認知症サポーター研修の講師などを務め、実践で得た知識や経験を受講者に伝えることで認知症の理解を深めると同時に次世代に繋がる人材育成にも関与している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議の中で出席者にパワーポイントを用いて活動内容を紹介し、日頃の生活の現状把握と外部からの率直な意見を集約する場として活用している。また会議の議事録を事業所内でも閲覧し、情報の共有に努めている。	全家族へ呼びかけ、地域包括支援センター、民生委員、退所者の家族も顧問として参加している。事業所のひだまり新聞を配って情報提供し、率直な意見交換が数多くあり、取り組みに生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席してもらい様々な角度から助言を頂き、事業所の運営方針や支援内容に理解を頂いている。広域連合には毎月の実績報告や会議の議事録などを持参し訪問している。	広域連合に毎月実績報告に行くことでコミュニケーションを図り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の観点から玄関は施錠している。それ以外の時間はエレベーターのスイッチを切ったり出入り口や居室などの施錠は行っていない。その他施錠に限らず身体拘束にあたる行為は行っていない。	パンフレットに「拘束は行わない」と明記、また、事業所内外の研修や会議で全体の意識を高め、業務の中でも周知徹底している。危険防止で車椅子のフットレストのベルト等を使う場合は家族に同意を得て、時間や対応した職員を記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな傷やアザなどを発見したら記録に残し、原因の究明に努めている。また職員会議などでも虐待についての認識や職員それぞれの見解について聞き取りを行い、認識の相違点があればその都度指導、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の会議や研修を通し学ぶ機会を持っている。また、実際の支援や本人を取り巻く環境の中で後見人の役割や家族との違いなどについて職員個々に話し合い制度についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に重要事項の説明を行い納得してもらった上で同意をもらっている。また制度改正時には説明会を開催し書面にて同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族や成年後見人に文書を以って近況報告を行っている。運営推進会議や面会時などにもコミュニケーションをとり意見が発信しやすいよう努めている。また毎月利用者主導の桜の会(旧自治会)を開催し食べたい物や行きたい場所等の意見を集約する場としている。	利用者からは日々の会話や桜の会で、家族からは面会時や運営推進会議の中で意見を頂き、業務の改善や取り組みへ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から代表者へ毎月自己評価表を提出し相互間で意見交換ができるようにしている。また日常業務の中や毎月の会議の中で意見を集約し、必要であれば業務の中に反映させている。	職員からの提案は施設長や管理者と共に検討され、できるところから実行している。最近では、浴室の脱衣所で扉の開放時のプライバシー保護のために出入り口にカーテンを設置することを提案し、取り上げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、自己評価表を提出することで代表者は職員の課題や悩みをある程度把握している。それを受けてアドバイスしたり、向上心や向学心が育まれるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、地域密着型サービス連絡協議会が主催する研修に可能な限り職員が参加できるよう配慮している。また、定期的に事業所内研修を実施し向学意欲の助長と学習する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会が主催する研修や懇親会などに参加し同業者との交流を図っている。また毎月の地域密着型サービス協議会主催の研修に参加しグループワークなどを通じて情報交換や関係性が構築されるよう機会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人の意向や状態をできるだけ詳細把握に努め、住み替えによるダメージの軽減や不安な要素の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に事業所の方針や注意事項を説明、同意してもらい入居後も面会に来やすい環境作りや信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の精神的な負担を軽減すべく、できるだけ環境に適応できるように、本人の状態把握に努めている。また家族への連絡や支援方法についても相談しながら支援をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き自分でできることは極力自分で行ってもらうよう働きかけている。また利用者同士の相互関係を大切にし、お互いに助け合う精神を意識できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の本人の様子を手紙に記し郵送したり、面会時に近況を報告している。また面会時には一緒に散歩に行ったり食事介助に関わってもらうなど本人との関係性にも配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や親戚が面会に来られる機会があり、その際は居室内などでゆっくり談話する場を提供している。また、利用者からの意見を聞き外出先は昔からの馴染みの場所に出かけるなど、回想することも兼ねて支援している。	誕生会の家族への案内状は利用者自身が書いてポストへ投函している。また、以前喫茶店を経営していた方がコーヒーを飲みに行ったり、花見等は馴染みの場所を聞き行ったり、趣味の魚釣りや海を見に行く、図書館に行く等、個別に対応して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の人間関係にも配慮し、座席の配置なども相談しながら決めている。また日常的な家事を通して助け合う場面が多く、各々が役割意識を持った上で他者の役割にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても運営推進会議の顧問という立場で残留してもらい、一歩引いた立場から様々な助言や意見を頂いている。また、気軽に訪問していただけるようコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の桜の会の中で利用者から発信される意見を日常生活の中に反映させている。毎日流れている当たり前の日常の中での課題や希望を確認しながら、できるだけ各々の希望が実現できるよう努めている。	把握が困難な方の場合でも家族が代弁者となり、また日々の様子から意向をくみ取るよう努め、「家にいる」という視点でどうするのが良いかを検討している。また、桜の会で出される意見を大切に、職員間や運営推進会議でも検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に過去の生活歴などを確認し入居後の生活に反映できるように努めている。把握していない情報については家族が面会に来た時や、入居前に関わっていたケアマネジャーなどの関係者からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の過ごし方に逐一干渉せず、基本的に自由に過ごしてもらう様にしている。職員同士の申し送りでは利用者の状態を細やかに伝え皆で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは面会時及びそれが叶わない方には電話連絡をとりながら進めている。桜の会の中で利用者から出た意見を参考に計画の中に組み込んでいる。日常の細かな状態の変化は個人記録の中や申し送りノートなどを活用し情報が共有できるようにしている。	利用者の担当職員が利用者と家族からどのような暮らしをしたいか聞き取りをした内容を元に、月に1度の会議において全職員で検討し、介護計画作成と見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個人記録の中に時系列的に記入するようにしている。本人が発した言葉などもリアルに記入し、職員が情報を共有できるようにすると共に希望があれば家族にも閲覧を促している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせて、医療保険での訪問リハビリを利用したり、希望に応じた場所へもできるだけ訪問できるよう外出支援も行っている。本人の自宅近所の馴染みの場所や、自宅の近況が気になるようであれば付き添って外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや介護相談員などの来訪により職員や家族以外の方とも関わりがある。また運営推進会議では民生委員から地域行事へ招待してもらい参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に精通した主治医と連携をとっており、定期的な受診も事業所が対応している。また状態悪化時には往診も要請し柔軟に対応してもらっている。	利用者全員が協力医をかかりつけとし、受診と往診への対応は事業所が行っている。他科受診は家族が中心となっており、受診時の送迎が困難な方へは職員が送迎をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を報告し情報の共有に努めている。看護師自身も利用者の日々の記録の中に専門的立場からの所見を看護師が記入したことが分かるように明記している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーと連絡をとりながら治療方針や本人の状態を確認している。また実際に面会に行くなどして状態の把握に努め、早期退院に結びつくよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を書面で以って確認しているが、実際に終末期の段階になったら看取りの指針を示し、状態の説明と、方針への同意、更には主治医からの説明にも可能な限り同席してもらい意向の確認を徹底している。また、職員には研修の中で対応法を共に考えている。	利用者の重度化対応指針を作成し、終末期の段階になったら見取り指針を示し、医師からの説明がある。その上で家族の意向の確認と同意を得ている。居室に家族が泊り込み、家族や職員と共に最期を迎えることができた利用者もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所内外の研修に参加し必要な知識を身につけている。緊急時のマニュアルをすぐに閲覧可能な場所に保管しいつでも対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。訓練実施後には反省会を開き課題を浮き彫りにし次回の訓練や実際の緊急時に向けて対応できるように準備している。また管理者は市内の施設防災ネットワークに登録し、過去に災害で被災した地域を訪問するなどして防災意識の向上に努めている。	夜間想定火災訓練として、消防署の立会いのもと消火と避難を行っており、備蓄は、水・乾パン・ヘルメット・防災頭巾を用意している。また、近隣の商業施設にも災害時の支援をお願いしている。	電話連絡網や机上訓練、夜間避難訓練、招集訓練等想定を変え、今後も、近隣の方々に災害時の協力を求めた訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴や大切にしてきた物事を知り、その人らしさを尊重した上で自尊心を傷つけないような発言はしないという意識をチーム間で共有している。また居室への入室時も必ずノックをしプライバシーを侵害しないようにしている。	入居者が全員女性のため、入浴介助は女性職員が行っている。失禁時への対応も、プライドを傷つけないように気を配って、声かけ誘導している。実習生も女性に来てもらうように学校へ依頼している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1回利用者主体の桜の会という会議を開催している。利用者の中から会長を選任し、利用者主導の場となるよう進行している、その中では行きたい場所ややりたいこと、生活上の希望や課題を自ら抽出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク散歩など、定められた時間にしなければならないという訳ではなく、その都度気分や思いを確かめ利用者のペースを大切にしながら支援している。その根底には桜の会の中で各々の意向や希望を確認し日常に反映させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時に整容をし自立できる方へは声掛けなどして促している。また、誕生会や外出する際には化粧をするなどして身だしなみに配慮している。またブラシやヘアピンなどの小物類を常備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者委託にて提供しているが、月に1度利用者自らが行うご飯作りの日を設けており、献立については自治会の中で意見を出し合いできるだけ旬の食材が食卓に並ぶようにしている。配膳、下膳は利用者本人に行ってもらおう声掛け、見守りを行っている。	昼食前にみんなでラジオ体操をうたいながら行うことで体をほぐし、献立を読み上げることで嚥下訓練にもなり、会話をしながら食事を楽しんでいる。誕生会のケーキはその方の好みや咀嚼・嚥下の状態に合わせて全員で作し、真心がこもっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録し、夜間帯も含め水分量の確保に努めている。利用者の状態と合わせ栄養過多及び不足とならないように注意し支援している。形態についても普通食からペースト食まで柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の洗浄を行っている。自立している方へは声掛けを行うのみにし、自分のタイミングで行えるよう見守りを行っている。義歯を使用している方は毎晩ポリドントにて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレにて排泄している。オムツの使用は外出時などの必要最小限にとどめ、オムツ内で排泄しなくても済むように支援している。個人によって種類も変え、本人にとって一番快適な状態で排泄できるよう努めている。	排泄チェック表を用いて声かけ誘導することで、全員トイレにて排泄ができています。オムツを使っていた方も全員、布パンツとパットにかえることで、皮膚の状態が良くなり、室内のニオイも無くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用者はおらず、毎朝の牛乳の飲用や体操、散歩などを行うことで自然排便が誘発されるよう努めている。またトイレ誘導や水分補給を確実にすることで排泄リズムを作り薬に頼らない方法で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能である。概ね午後から行っているが桜の会の中でも時間帯を利用者自らが決め、希望があれば就寝前に入浴してもらうことも可能である。	一人一人ですっきり入浴し、季節のゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでおり、散歩で汗をかいたらシャワー浴を行う等、臨機応変に対応している。利用者全員が希望通りに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調節や環境に配慮したり、温かい飲み物を提供して落ち着いてもらうなど安眠が確保できるよう努めている。生活リズムを整える為に日中の活動量を増やし、夜間の安眠が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴り、処方された日付けや期間がすぐに確認できるよう管理を徹底している。また状態変化時に限らず看護師と常に連絡を取り合い、連携しながら支援を進めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を参考に、それぞれの得意分野を生かし家事などを分担している。役割分担することで、自分が他者から必要とされていることを認識してもらえるよう努めている。また散歩や外出をすることで気分転換を図ってもらい、趣味のある方には思い思いに過ごしてもらえるよう環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日行っているが、それ以外に散歩の途中に喫茶店に寄ったり、釣り堀に行ったりと個人の希望を尊重した支援を行っている。また、家族の協力も得ながら、社会福祉協議会のバスを手配しセントレアに日帰り旅行も実施した。	日常の関わりの中から聞き出したり、桜の会での意見をもとに、入居者一人一人の希望が叶えられるように支援し、時々家族も同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な会話から本人が欲しい物、食べたい物等を聞き取り、本人と共に買い物に行った際には可能な限り支払いを自身で行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の公衆電話にて家族や友人に自由に電話できる環境にある。また本人の希望を聞いて年賀状や礼状を書くなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を感じられるような貼り紙をしたり、リビングのテーブルには常に季節の花を飾っている。またベランダにも花を植え、視覚や嗅覚でも季節感を感じられるような環境を設定している。	常に室温に気を配り、利用者が役割意識をもって掃除を行なっている。食堂兼居間は明るくゆったりしており、廊下には日々の写真が沢山飾られ、楽しい思い出を振り返ることができる。ベランダでは利用者が苗や鉢の購入から行いトマトを育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に、廊下にくつろぎスペースを設けソファ、テーブル、電気スタンドや芳香剤などを置いてゆったりと少人数で集うことが可能なように環境整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で馴染んでいた家具を持ちこんでもらい、家具の配置場所などは本人と家族に決めてもらい、不安なく安心して過ごしてもらえるような環境整備に努めている。	居室はトイレと洗面台が用意され広々としている。位牌を持ち込み、命日には供え物をして手を合わせる利用者もいる。介護状況に合わせて移動時の安全面に配慮し家具の配置を変えたり、ベッドを介護用に入れ替える等対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室には表札や認識できるような写真や絵を貼り出し、自分の部屋であることが認識できるようにしている。また利用者の中で回覧板を回し催しの案内や桜の会の日程などを周知してもらっている。また廊下の掲示板にも予定の案内を貼り出し、予定が認識できるようにしている。		